富山発夢未来　～日々新たな気持ちで挑み、学びを楽しむ～

未来志創

2023(令和5)年
10/09 月
通心029(第762号)

成熟した少年少女よ　大志を抱け！

毎日学んでいるオンラインサロンで、興味深い話がありました。10代までの学生脳と大人の脳には異なる特性があるという話です。10代までの学生脳の特徴は、聴覚から記憶への脳内のルートが強くて使われやすいのです。つまり、聞いたことをそのまま記憶したり、見たままを記憶するという力に長けているのが10代の特徴とのこと。それに対して、大人脳は、年齢を重ねるにつれて、「聴覚―記憶」のルートだけではなく、「理解―記憶」ルートを中心に、感情や思考、視覚、聴覚、伝達等、脳のさまざまな領域を総合的に駆使して記憶されるようになります。

学生脳が小さな双葉のような状態だとイメージすると、大人脳は大きな樹木に例えることができます。双葉はまだ小さいため、成長するための光も栄養分もそれほど必要としません。一方、成長して枝や葉っぱが増えた樹木は、光合成のためにより多くの光を浴びる必要があります。葉っぱが増えて密になると、なかなか太陽の光も当たらなくなります。そのため、成長はゆっくりになります。

大きな樹木のように発達した脳にもよく使う部分とそうでない部分には差があります。例えば、日頃からプレゼンやスピーチ等、人前でよく話すことを仕事としている人であれば、脳の「伝達系脳番地」はよく使ってるため発達していきますが、体をよく動かす「運動系脳番地」はあまり発達しなくなります。樹木の枝のように、脳にも多くの番地があります。よく使う脳番地はどんどん発達していくため、得意だと感じるようになり、使わない脳番地に関わることは不得意だと認識するようになります。つまり、得意・不得意は経験の差だと捉えることができます。

たとえ成長に時間がかかったとしても、脳は年齢を重ねても確実に成長していきます。子どもに向かって「今のうちに勉強しておいた方がいい」と言う大人を見かけたら聞いてみてはどうでしょうか。「ではあなたは、今どんなことを学んでいるのですか」と。大人たちが年齢を重ねるにつれて、より多くの新たなチャレンジを積み重ね、それを心から楽しんでいる姿を子どもたちに見せることこそが成長に欠かせない“光”になるではないでしょうか。人生100年時代ともいわれる今日において、より長く人生を楽しむための秘訣は、「学び続けること」なのです。

その時の自分に必要な情報が舞い込んでくる

自分に必要な情報は、ふと開いた本の一ページに書いてあるかもしれませんし、パッとつけたテレビのワンシーンかもしれません。

ある資格を取るための勉強をしている大学生が、どうもやる気が起きなくて困っていた時、本屋でマンガ雑誌を開いたら、セリフの中の「やればできる」という言葉が目に飛び込んできました。そのあと電車に乗ったら、中吊りの雑誌の広告欄にまたも「やればできる」という言葉が大きく書いてあるのが目に入りました。

こういうこともすべて情報です。

「やればできる」などという言葉は、彼がその状況にいなければ素通りをしていたような、よくある言葉です。

その時の自分に必要があるから、目に留まったのです。

「なんだか気になる」とか、どうしてだか心に残った言葉や表現は、その時の自分への答えや情報です。決して偶然ではありません。自分のレベルにふさわしい答えを示してくれているのです。

情報が来ないと思う人は、まわりにたくさんあるのに気付いていないだけです。

『あなたは絶対！運がいい』(浅見帆帆子／廣済堂出版)

身の回りで起こることは自分を映し出す鏡です。何かのメッセージだと思って有難く受け取りたいものです。